

報告第10号

令和6年度教育に関する事務の点検及び評価の報告について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、教育に関する事務の点検及び評価について報告する。

令和7年8月29日

西脇市教育長 遠藤 一 博

令和6年度

教育に関する事務の点検及び評価
報告書

令和7年8月

西脇市教育委員会

《参考》

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

1 教育委員会の点検・評価

(1) はじめに

西脇市教育委員会では、第4期西脇市教育振興基本計画「教育創造にしわきプラン」に掲げる「『人間磨きの教育』～ふるさとを愛しにしわきの未来織りなす人づくり～」を基本理念とし、4つの重点目標を設定しています。

当該基本計画に基づき、学校・家庭・地域との連携を図りながら、学校教育・社会教育のそれぞれの分野において、様々な教育活動を展開しており、広報紙やホームページなど様々な機会を通じて情報発信にも取り組んでいます。

また、毎年度、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、本報告書を作成し、議会へ提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政の推進に努めています。

(2) 点検・評価の実施方法について

ア 点検・評価の対象事業について

令和6年度の主要課題に着目し、主要事業を選定しました。

イ 点検・評価の対象期間について

毎年4月から翌年3月まで1年間の点検・評価を実施することにより、次年度以降の教育行政の充実・拡充に生かします。

ウ 評価方法について

自己評価では、各事業における目標達成に至るまでのプロセスと目標達成度を考慮した上で、マトリクス図により5段階の評価を行いました。

「評価5」高評価 ⇔ 「評価1」低評価

		目標達成へのプロセス		
		困難 (A)	普通 (B)	容易 (C)
達成 度 標	目標以上	5 A	4 B	3 C
	目標相当	4 A	3 B	2 C
	目標以下	3 A	2 B	1 C

エ 学識経験者による外部評価について

上記の方法で実施した自己評価に対する客観性を確保するため、2人の外部評価委員から意見を聴取しました。

大野 裕己 氏	兵庫教育大学大学院学校教育研究科教授
岡本多歌子 氏	元小学校教員

2 教育委員会の活動状況

(1) 教育委員名簿（令和6年度在籍）

職名	氏名	備考
教育長	遠藤 一博	
教育長職務代理者	岸本 みのり	令和3年12月23日～教育長職務代理者
委員	柴垣 美紀	
	藤尾 寛	
	和多 眞乗	

(2) 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議については、定例会を毎月1回開催すること、臨時会は教育長が必要と認めるとき及び2人以上の委員から請求があるときに開催することになっており、令和6年度は合計15回開催しました。

(3) 教育委員会会議での審議事項

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第25条及び西脇市教育長に対する事務委任規則第2条の規定に基づき、令和6年度は32件審議しました。

	審議項目	件数
ア	学校教育及び社会教育に関する一般方針を決定すること	12
イ	教科用図書及びその取扱いの一般方針を定めること	2
ウ	県教育委員会の人事一般方針に基づき内申を行うこと	1
エ	教育委員会その他教育機関の職員の任免その他人事に関すること	2
オ	教育委員会規則その他教育委員会の定める規程の制定改廃に関すること	4
カ	議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること	2
キ	教育予算の見積りを決定すること	7
ク	教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価に関すること	1
ケ	表彰に関すること	1
コ	社会教育委員及び文化財保護審議会委員を委嘱すること	0
サ	市指定文化財の指定及び解除を行うこと並びに県・国文化財の指定等の具申を行うこと	0

（審議案件以外に、報告41件、協議3件を取り扱いました。）

(4) 教育委員会会議以外の活動状況

教育委員は、教育委員会会議への出席以外に、学校訪問、各種行事や会議等に参加しました。その概要は、次のとおりです。

ア 市議会定例会・臨時会への出席（教育長）

イ 教育委員研修会等（各委員）

- (7) 市町村教育委員連合会定時総会・全県教育委員会研修会
(5月)
- (4) 播磨東地区教育委員会連合会総会・研修会(7月・11月)
- ウ 学校行事(各委員)
 - (7) 学校指導訪問(6月・7月、10月・11月)
 - (4) 入学式・卒業式(4月・3月)
 - (ウ) オープンスクール(年間)
 - (エ) 運動会・体育大会・文化祭等(9月～11月)
- エ その他行事(各委員)
 - (7) 青少年問題協議会(7月・2月)
 - (4) 市民体育大会、二十歳の集い等(10月・1月)
 - (ウ) 「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会
(8月)
 - (エ) その他教育委員会等関係行事(各月)
- (5) 成果と課題

本市では、令和6年3月に第4期西脇市教育振興基本計画「教育創造にしわきプラン」を策定しました。当該基本計画は持続可能な未来社会の創り手を育み、活力あふれる社会の実現に向けて、「そろえる教育」から「伸ばす教育」に取り組み、一人ひとりが自分のよさや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら社会の変化を乗り越え、豊かな人生を切り開くため「西脇市総合計画」の教育に関する内容や教育関係諸計画等を踏まえて策定したものです。令和6年度から令和10年度までの5年間を計画期間とし、「『人間磨きの教育』～ふるさとを愛しにしわきの未来織りなす人づくり～」を基本理念と定め、教育施策を推進します。

学校教育の推進では、令和6年度教育の指針において重点施策を示し、特に、小中一貫教育を見据えた取組として、各中学校区において、「小中共通の教育目標・目指す子ども像」を設定し、小中9年間の学びの系統を意識しながら、小中の教員が組織的・継続的に一貫した教育を実施する研究を行いました。

確かな学力の育成については、GIGAスクール構想の推進として、1人1台端末とクラウド環境を日常的に活用することで、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図るとともに、文部科学省リーディングDXスクール事業の指定を受け、授業及び校務のDXに取り組みました。今後も、この事業を市内全域に横展開していく必要があります。

豊かな心の育成については、問題行動の未然防止の対応として、いじめの認知意識を高めることが浸透し、いじめの早期対応につながっています。

今後は、いじめの早期解決及び減少に向けて、事案発生時の組織的な対応の強化と、特別活動を生かした人間関係力の構築を推進していく必要があります。

就学前教育の推進では、大学教授等の学識経験者を含む西脇市就学前教育・保育の質の向上推進委員会を設置して6年目となり、市内の認定こども園では、自己評価に基づく指導助言を受けての改善・見直しのPDCAサイクルが浸透し、教員の意識や意欲の高まりにつながりました。

今後は、さらに教員の資質向上を図るため、課題別研修の内容を充実するとともに、園小接続カリキュラムの運用推進・検証を行う園小接続カリキュラム研究委員会の開催や園小相互参観、園小架け橋研修会等の実施により、就学前教育と小学校教育との連携を強化します。

不登校課題については、不登校児童生徒の個に応じた支援を行うことにより、学校復帰を含む義務教育終了時点での自立に至る一定の成果がありました。今後は、不登校児童生徒に対する教育機会の確保の観点から、はればれ教室や校内サポートルームにおける支援内容の充実に取り組む必要があります。

学校施設の整備では、西脇小学校RC棟東側外壁改修工事及び西脇中学校屋内運動場鋼製束改修工事等を実施したほか、小学校で99件、中学校で51件の修繕を実施し、児童生徒の安全・安心で質の高い教育環境の整備を行いました。

学校教育施設の計画的・効率的な整備を推進するため、西脇市立小中学校教育施設長寿命化計画を策定していますが、西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画と整合を図るため、同計画の改定を行っています。

また、水泳指導の専門性を有する指導者から学ぶことの教育効果の期待や、教員の負担軽減及び学校プール管理経費削減のため、学校水泳授業について民間委託実施の準備を行いました。令和7年度から比延小学校と双葉小学校をモデル校として天神池スポーツセンターで実施予定です。

学校学習環境規模適正化では、西脇東中学校と黒田庄中学校の統合新中学校として活用する施設について、統合懇談会等を実施し、その結果等を踏まえ、西脇東中学校を活用することとして、令和6年12月に西脇市立学校学習環境規模適正化推進計画の改定を行いました。また、統合新中学校の令和9年度開校に向けて、

開校準備委員会の開催要領の策定等を進めました。

学校給食では、衛生管理及び食品の安全管理に留意し、食中毒事故を起こさずに学校給食を提供することができました。食育の推進では、食育だよりの発行と栄養教諭が学校に出向き、食育の推進に努めました。

また、国の学校給食摂取基準により子どもたちの健やかな成長に適した献立を作成し、子どもたちに安全・安心でおいしい学校給食の提供に努めました。

今後も、年間を通じて安全で栄養バランスのとれた学校給食の提供と地場産野菜の使用に努め、より良い学校給食を提供していきます。

人権教育では、人権が尊重される社会の実現に向け、西脇市人権教育協議会等と連携を図りながら、地域・学校園・職場において人権教育・啓発を推進しました。

「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会では、講師の承諾が得られた講演会については、会場受講とオンライン配信（リアルタイム配信・オンデマンド配信）のハイブリッド形式で開催し、幅広い世代が参加しやすい実施形態としました。

また、西脇市人権教育研究大会では、全体会実施に加え、分科会に外部講師を招へいするなど、一人でも多くの方に人権について関心を持っていただける内容を取り入れました。

子ども多文化共生サポーターや多文化共生キッズサポーター、日本語指導員の派遣、にしわきジュニアじんけん教室の開催、人権啓発資料の作成、人権啓発作品の募集・作品発表等にも取り組みました。

今後も、多くの市民の参画による人権教育・啓発を進めていきます。

生涯学習では、公民館講座において、市民が気軽に取り組める学習機会を提供しました。各種講座や自主運営講座等により市民の主体的な学びを支援するなど、豊かな人間性を育む生涯学習の推進を図りました。シニアカレッジにおける各講座では、高齢者の生きがいつくりや高齢者による地域貢献活動の活性化に努めました。

芸術・文化事業では、美術展覧会や文芸まつりなどを実施するとともに、市民交流施設周年事業として、劇団四季のファミリーミュージカルをはじめとする事業を実施しました。また、市民交流施設を核とした芸術・文化活動を充実していくため、アートサポーターとの協働によるイベントを実施するなど、活動を担う人材育成にも取り組みました。

スポーツの推進では、健康寿命の延伸を目指し、卓球を生涯スポーツの一つとして推進していることから、卓球練習場の無料開放を継続し、卓球人口の増加に努めました。

ユニバーサルスポーツでは、スポーツ推進委員の協力を得て、出前講座でボッチャ等の普及を図り、ボッチャ交流大会を実施しました。

生活文化総合センターでは、作品展示や会議及び学習ルームとして諸室を利用いただいております、令和5年度と比較し、利用者数が僅かに増加しました。

郷土資料館では、体験教室の開催回数の増加やバスツアーの受け入れにより、入館者数が増加しました。今後は、企画展、体験教室などのイベントの充実やPR活動及び学校との連携を図るなど、郷土資料館の魅力向上に取り組み、入館者数の増加を目指します。

図書館では、資料の充実を目指す中で、令和6年度末には蔵書数が251,963冊となりました。貸出冊数は362,714冊で前年度に比べ3.4パーセントの減となりました。また、学校園等への図書団体貸出は、25,919冊とこれまでの最高となりました。

令和6年度末には目標としていた蔵書数25万冊を達成しましたが、今後も更に資料内容の充実を図っていきます。また、全国トップレベルの図書館のあかしとされる貸出密度10冊以上を目指すとともに、市民の学習への支援や子どもの読書活動の推進に引き続き取り組みます。

以上のような成果及び課題を踏まえ、引き続きPDCAサイクルを活用した事業展開を図り、教育委員会自体がその資質を高めるとともに、関係諸団体への指導・助言・活動支援、各種事業等の奨励等を通じ、市民の信頼に基づく円滑で成熟した教育行政の推進に努めます。

第4期西脇市教育振興基本計画「教育創造にしわきプラン」体系

重点目標	施策の柱	施策の基本方針項目(市施策)	
1 地域社会の持続可能な発展を実現するための人材の育成	1 確かな学力の育成	1 乳幼児期における教育・保育の質の向上	
		2 新学習指導要領の着実な実施等	
		3 全国学力・学習状況調査の実施・分析・活用	
		4 就学前から中学校教育までの各段階の連携の推進	
		5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実	
		6 キャリア教育の充実	
	2 豊かな心の育成	1 子どもたちのウェルビーイングの向上	
		2 道徳教育の推進	
		3 いじめ等への対応の徹底、人権教育の推進	
		4 体験活動や読書活動の充実	
		5 伝統や文化等に関する教育の推進	
		6 青少年の健全育成	
		7 ふるさと意識を育む教育の推進	
		8 子どもの権利利益の擁護	
	3 健やかな体の育成	1 子どもの健康の保持増進をはじめとする食育の充実	
		2 子どもの基本的な生活習慣の確立に向けた支援	
		3 学校や地域におけるスポーツ機会の充実	
	4 グローバルに活躍する人材の育成	1 英語をはじめとした外国語教育の強化	
		2 多文化共生教育の推進	
	5 主体的に社会活動に参加する態度の育成	1 男女共同参画の推進	
2 主権者教育・租税教育等の推進			
3 環境教育の推進			
4 災害からの復興等持続可能な地域づくりのための教育の推進			
5 子どもの意見表明			
2 西脇市がまるごとつながり、支え合う教育の推進	1 家庭・地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進	1 家庭の教育力の向上	
		2 地域の教育力の向上、学校との連携・協働の推進	
		3 地域における支援機関との連携	
		4 地域の特色を生かし、学校・家庭・地域が連携した食育の推進	
2 地域コミュニティ基盤を支える社会教育の推進	1 新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策の充実	1 新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策の充実	
		2 地域の教育資源の活用	
3 全ての人の可能性を引き出す共生社会の実現に向けた教育の推進	1 人生100年時代を見据えた生涯学習の推進	1 現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進	
		2 リカレント教育の充実	
		3 高齢者等の生涯学習の推進	
		4 ライフスタイル・ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	
		5 生涯を通じた芸術・文化活動の推進	
		6 西脇市図書館における生涯を通じた自主学習の支援と読書活動の推進	
	2 人権意識の高揚を図る人権教育の推進	1 人権に関する学習機会の充実	1 人権に関する学習機会の充実
			2 人権教育・啓発のための情報の提供
	3 障害のある人の生涯学習の推進	1 学校卒業後における障害のある人の学びの支援	1 学校卒業後における障害のある人の学びの支援
			2 切れ目ない支援体制構築に向けた特別支援教育の充実
			3 障害のある人のスポーツ・芸術・文化活動の振興等
	4 多様なニーズに対応した教育機会の提供	1 特別支援教育の推進	1 特別支援教育の推進
			2 不登校児童生徒の教育機会の確保
			3 教育へのアクセスの向上、教育費負担の軽減に向けた経済的支援
			4 学校教育における学力保障・進路支援、福祉関係機関等との連携強化
			5 ヤングケアラーへの支援
4 教育施策推進のための体制・環境の整備・充実	1 新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導体制	1 教育指導体制の整備	
		2 教員の指導環境の充実	
		3 これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上	
	2 ICT利活用の推進	1 情報利活用能力の育成	1 情報利活用能力の育成
			2 各教科等の指導におけるICT活用の推進
			3 校務のICT化による教員の業務負担軽減及び教育の質の向上
			4 学校のICT環境整備の促進
			5 社会教育分野のデジタル活用推進
	3 安全・安心で質の高い教育環境の整備	1 安全・安心で質の高い学校施設等の整備の推進	1 安全・安心で質の高い学校施設等の整備の推進
			2 将来的に持続可能な学校学習環境規模の適性化の推進
			3 学校における教材等の教育環境の充実
	4 児童生徒等の安全・安心の確保	1 学校安全の推進	1 学校安全の推進
			2 大規模災害等への対応
			3 教育相談体制の整備
	5 西脇市の地域資源の整備	1 文化財の保存	1 文化財の保存
			2 文化施設の充実・整備
			3 スポーツ施設の充実・整備
			4 社会教育施設の整備・持続可能な運営

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	教育総務課
-----	-------

(A) 重点課題

○安全・安心で質の高い教育環境の整備
 学校教育施設の計画的、効率的な整備の推進

(B) 現状及び展開方針

- (1) 学校施設の適切な点検や維持管理を行い、老朽化した学校施設の改修を計画的かつ効率的に推進し、長寿命化を図る。
- (2) 学校施設の耐震化は、非木造・木造校舎とも補強工事及び改築により耐震化工事を完了した。
- (3) 学校学習環境規模適正化推進計画を踏まえた小中学校教育施設長寿命化計画の改定に取り組む。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
西脇市立小中学校教育施設長寿命化計画の改定	4-3-1	計画改定	方針検討	骨子策定	計画改定	改定中	2B

(D) 主な取組の成果

- (1) 本計画の改定については、学校学習環境規模適正化推進計画における学校の統合と整合を図る必要があるため、改定作業の一部を令和7年度へ繰越しを行った。
- (2) 学校施設営繕事業等において、小学校で99件、中学校で51件の修繕を実施し、児童生徒の安全・安心で質の高い教育環境の整備を図った。
- (3) 教員の負担軽減及び学校プール管理経費削減のため、学校水泳授業について民間委託の準備を行った。令和7年度から比延小学校と双葉小学校をモデル校として天神池スポーツセンターで実施する。

(E) 今後の課題

- (1) 学校学習環境規模適正化推進計画と整合を図った上で本計画の改定を行う。
- (2) 老朽化する学校施設の対策として、施設整備費の年度間の平準化を図るとともに、危険箇所等を中心に優先順位を決め、学校施設の早期修繕を行う。
- (3) 体育館の空調設備整備など、児童生徒にとって、より安全・安心で質の高い教育環境の整備を推進する。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 教育総務課学校給食センター

(A) 重点課題

○健やかな体の育成
子どもの健康の保持増進をはじめとする食育の充実

(B) 現状及び展開方針

- (1) 学級担任や教科担当と栄養教諭との連携による、効果的な食に関する指導の充実
- (2) 児童生徒の嗜好の偏りをなくすよう配慮した魅力あるおいしい学校給食の提供

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 栄養教諭による食育指導	1-3-1	実施回数	142回	224回	145回	277回	4 B
(2) 学校給食残菜率	1-3-1	残菜率	5.8%	5.1%	4.5%	4.7%	2 B
(3) 食中毒事故件数	1-3-1	件数	0件	0件	0件	0件	3 B

(D) 主な取組の成果

- (1) 栄養教諭3人により、各学校と連携しながら積極的に食育指導を行い、実施回数が277回と目標値を大きく上回る結果が得られた。
- (2) 残菜率については、毎日のおかずごとに残菜量を計測・分析し、残菜の多いメニューについては味付けや調理方法を検討するなどの方法により低下に向けて取り組んだが、目標値を達成することができなかった。

(E) 今後の課題

今後も、継続して食育指導を行っていくとともに、残菜率については、低い水準を維持できるよう努める。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 教育総務課学校給食センター

(A) 重点課題

○家庭の経済状況や地理的条件への対応
学校給食における地産地消の推進

(B) 現状及び展開方針

野菜生産者グループ例会を毎月開催し、給食食材（野菜）の地元産を優先している。農林振興課や北はりま旬菜館と学期ごとに三者会議を開催し、地場産食材についての情報交換を行っている。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
地産地消率	2-1-4	地産地消率	23.6%	25.1%	24.5%	14.6%	2B

(D) 主な取組の成果

令和6年度は、天候不順に加え、野菜生産者グループの高齢化に伴う会員の脱退があり、目標値を達成することができなかった。
また、地産地消の取組として、農林振興課、北はりま旬菜館との三者会議を学期ごとに開催しており、黒田庄和牛のコロッケ、金ごま、イチゴ及びイチゴジャム（センターで加工）を提供することができた。

(E) 今後の課題

引き続き野菜生産者グループとの連携を図りながら地産地消を推進するとともに、農林振興課と連携し、生産者の確保に努めていく。また、市の特産品である黒田庄和牛、金ごま、イチゴなどの提供について、農林振興課との連携のもと、関係農家等と調整を行っていく。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	人権教育課
-----	-------

(A) 重点課題

○グローバルに活躍する人材の育成
多文化共生教育の推進

(B) 現状及び展開方針

- 帰国児童生徒や外国人児童生徒等日本語指導が必要な児童生徒を支援する。
- 円滑なコミュニケーションが図れるよう外国人園児等やその保護者を支援する。
- 国際理解や異文化への理解を図り、多文化共生への認識を高める。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 子ども多文化共生サポーター派遣事業 子ども多文化共生サポーター充足率 (サポーター派遣者数÷日本語指導が必要な児童生徒数)	1-4-2	充足率	100%	100%	100%	100%	3B
(2) 多文化共生キッズサポーター派遣事業 多文化共生キッズサポーター充足率 (多文化共生キッズサポーター派遣者数÷派遣申込数)	1-4-2	充足率	100%	100%	100%	100%	3B

(D) 主な取組の成果

- 日本語指導が必要な児童生徒（13人）について、子ども多文化共生サポーターを100%派遣できた。当該児童生徒在籍の学校からは、母語を効果的に活用した指導を取り入れることにより学ぶ意欲を高めることができた等の報告を受けた。また、保護者との面談等についても、多言語相談員（通訳）の派遣により、コミュニケーションをスムーズに行うことができた。
- 外国人園児等やその保護者を対象とした多文化共生キッズサポーターの派遣申込み2件に対し、100%派遣できた。この派遣により、当該園児等の生活適応や心の安定を図るなど、園生活への適応を促進することができた。

(E) 今後の課題

- 日本語指導が必要な外国人児童生徒等の増加に加え、背景（言語、年齢、在留期間、日本語習得状況等）が多様化しており、支援にあたる子ども多文化共生サポーターの人材確保が課題である。また、サポーター派遣が時間的に制約のあることから、状況に応じたICTの活用により、生活適応や学習支援をより効果的に進めることが必要となっている。
- 日本語習得の促進とともに、日本での異文化体験の取組を進める一方で、当該児童生徒の母文化保持を支援する異文化交流の取組も必要である。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	人権教育課
-----	-------

(A) 重点課題

○人権意識の高揚を図る人権教育の推進
人権に関する学習機会の充実

(B) 現状及び展開方針

8月を「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間に位置付け、啓発を行うとともに、市内各地区で講演会を実施する。
 (1) 多様な世代（特に20歳代～40歳代の若年層）が参加しやすい環境設定
 (2) 市民ニーズに合った講演内容の企画、実施

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会	3-2-1						2B
①若年層(20歳代～40歳代)の参加者の割合		割合	15.8%※1	18.0%※2	30.0%	31.8%	
②「たいへん満足」と答えた参加者の割合(アンケート)		割合	64.1%※1	62.3%※2	70.0%	57.3%	

〔参考数値〕※1 会場受講者対象アンケート集計による。
 〔参考数値〕※2 会場及びオンライン受講者対象アンケート集計による。

(D) 主な取組の成果

(1) 令和6年度は、8月に、市内8地区で人権講演会を開催した。4年度以降、講師の承諾が得られた講演については、会場受講に加え、オンライン配信を行っている。5年度からは更に参加しやすいよう、リアルタイム配信に加え、オンデマンド視聴も選択できるようにした。6年度の参加者は1,394人(会場913人、オンライン481人)となった。うち、若年層(20歳代～40歳代)は443人で、割合は31.8%と目標値を上回る結果となった。
 (2) 8地区の人権講演会のアンケート回答者総数881人のうち、「たいへん満足」と答えた参加者は505人で、割合は57.3%と目標値を下回る結果となった。

(E) 今後の課題

(1) 地域ごとのニーズをアンケートや地区役員との協議で把握し、講演会の企画(講師選定、実施日時の検討等)を行うことで、参加者の満足度を高める。
 (2) 講演会の実施方法については、会場での講演に加えオンライン配信を引き続き行うほか、託児の実施など、あらゆる世代が参加しやすいよう工夫し、参加者の広がりや特に若年層(20歳代～40歳代)の参加を促していく。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	生涯学習課
-----	-------

(A) 重点課題

○人生100年時代を見据えた生涯学習の推進
生涯を通じた芸術・文化活動の推進

(B) 現状及び展開方針

- 芸術・文化活動に取り組む組織（アートサポーター）による芸術・文化活動の推進及び新たな事業提案を行う。
- 市、(公財)西脇市文化・スポーツ振興財団、市民交流施設指定管理者及びアートサポーターが連携した芸術・文化活動の振興

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
芸術・文化活動の充実・支援	3-1-5	アートサポーターの設置・運営	メンバー12人 定例会10回	メンバー11人 定例会5回	メンバー12人 定例会4回	メンバー12人 定例会2回	2B
芸術・文化活動の充実・支援	3-1-5	「過去1年間に芸術・文化活動を行った」と回答した市民の割合	43.5%	41.8%	50.0%	38.8%	2B

(D) 主な取組の成果

- 西脇市アートサポーター企画事業として「Orinasアートミックス2025」を開催し、播州織の残布や残糸、不要になった段ボールを使ってワークショップを実施したほか、横尾忠則氏出演映画を上映した。
- 市民交流施設周年事業（池田政之氏脚本映画支援事業、ミュージックベル・トーンチャイム全国コンテスト、劇団四季ファミリーミュージカル）等の開催において、市、(公財)西脇市文化・スポーツ振興財団、市民交流施設指定管理者及びアートサポーターが連携協力し、芸術・文化活動の振興に努めた。

(E) 今後の課題

多様な分野で活動するメンバーで構成するアートサポーターの活動を継続していくため、メンバーとの合意形成や補助金等に関する情報収集・情報提供など事務局機能の強化に努める。
また、アートサポーターと(公財)西脇市文化・スポーツ振興財団、市民交流施設指定管理者がさらに連携協力し、市民が芸術・文化活動に触れる機会を創出するため、より効果的に事業を推進していくための体制の構築が課題である。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	生涯学習課
-----	-------

(A) 重点課題

○人生 100年時代を見据えた生涯学習の推進
ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

(B) 現状及び展開方針

人生 100年時代を見据え、健康寿命の延伸は重要な課題となる。健康であるためのスポーツ活動の重要性や必要性を周知するとともに、誰でも、いつでも気軽にスポーツに親しむための機会づくりとして、健康卓球やユニバーサルスポーツを推進する。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	3-1-4	過去1年間に、週1回以上、スポーツ・レクリエーション活動をした市民の割合	26.0%	24.3%	35.0%	28.2%	2B

(D) 主な取組の成果

- 卓球無料開放デーでは延べ 613人が参加し、スポーツに親しむための機会づくりができた(毎週金曜日午後)。
- ポッチャ教室等ユニバーサルスポーツ出前講座等を17回実施、延べ 542人が参加。市内ウォーキング会を28回実施、延べ 580人が参加

(E) 今後の課題

各種教室等において参加者の固定化が目立つ。スポーツやレクリエーションの実施頻度の低い人や関心のない人への周知啓発と参画人口の拡大に取り組む。
ユニバーサルスポーツの出前講座要請に対応するスポーツ推進委員の負担が増えている。また、受講者の受講後の自発的な活動、自立が課題である。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 生涯学習課中央公民館

(A) 重点課題

- 人生 100年時代を見据えた生涯学習の推進
- (1) 高齢者等の生涯学習の推進と生きがいづくり
 - (2) 地域貢献活動の推進

(B) 現状及び展開方針

- (1) シニアカレッジの学生の年齢構成は約7割を75歳以上が占めており、60歳以上の幅広い年代の学習意欲を高める取組を進めるとともに、学生数の増加に努める。
- (2) 学生が自ら習得した学習成果・技能や技術を生かし、シニアカレッジでの学習が地域貢献活動等に有効に活用できるように学習内容の検討と再構築を進める。
- (3) 学生間の交流機会を増やす中で自主的な活動へとつなげていく。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 地域貢献活動の推進	3-1-3	参加事例数	5件	14件	40件	25件	2 B
(2) シニアカレッジ主催の講座への参加率	3-1-3	参加率	61%	59%	65%	61%	3 B

(D) 主な取組の成果

- (1) 自治会の協力を得て、学生募集や学園祭の広報活動を行うことで、シニアカレッジへの市民の関心が高まり学生数の増加につながっている。
- (2) 学生同士の交流が増え、横・縦のつながりが徐々に広がり、シニアカレッジにおける充実した講座につながっている。
- (3) 地域貢献活動の参加事例数は少ないが、様々な講座で地域貢献活動への参加の機運が高まっている。今後複数の講座が地域貢献活動に参加する見込みである。

(E) 今後の課題

- (1) シニアカレッジについてより多くの方に活動を知ってもらうため、チラシの配布や学生自身が活動の発信などを行い、今後も学生の増加につなげていく。
- (2) アンケートをもとに、講座や学外研修を見直し、学生の生きがいづくりを進める。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	生涯学習課中央公民館
-----	------------

(A) 重点課題

○人生 100年時代を見据えた生涯学習の推進
現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進

(B) 現状及び展開方針

- 生涯学習の様々な講座を、公民館運営講座、市民による公民館自主運営講座、シニアカレッジ講座に区分し、分野ごとに市民ニーズに合った学習機会として提供することを目的としており、市民の学習意欲の高揚や公民館講座を通じた市民の交流が広がるよう取り組んでいる。
- 市民自ら教え学ぶ場としての自主運営グループの育成に取り組んでいる。今後も公民館自主運営講座の運営が維持できるようサポートを継続する必要がある。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 公民館運営講座〈講座事業〉	3-1-1	受講者数			(講座定員数)		2B
①おんがくふれあいルーム		〃	中止	中止	8人	中止	
②子ども絵画教室(前期)		〃	30人	30人	30人	30人	
(後期)		〃	29人	30人	30人	20人	
③子ども手芸教室		〃	20人	20人	30人	26人	
④ヨガ教室(前期)		〃	8人	6人	12人	7人	
(後期)		〃	10人	7人	12人	5人	
⑤夏休み子ども将棋教室		〃	21人	29人	30人	19人	
⑥その他講座(歴史探訪ハイク, 自然観察)	回数	1回	中止	2回	1回		
(2) 公民館自主運営講座〈講座事業〉 公民館自主運営講座	3-1-1	講座数	10	11	14	9	2B

(D) 主な取組の成果

現在開催している講座をより充実させられるよう、受講者の意見も取り入れながら、講師とカリキュラムの見直しや改善点の打合せを行い講座を開催したが、時期によって受講者数に変動があった。
公民館自主運営講座は働く世代の高齢化に伴い、新規講座生が減少しているが、講座生で話し合いを行い、似通った講座を合併し継続するという方法をとった。

(E) 今後の課題

受講者の意見や市民ニーズを踏まえた講座を運営し、受講者数を増やしていく必要があるが、民間の事業者が実施する講座等への影響を踏まえた運営に取り組む。
近隣市町で開催されている講座も参考にしつつ、市民が気軽に参加できる講座の開催を図る。
既存講座についても、継続に向け、受講者の意見を取り入れながら講師と調整を進める。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 生涯学習課生活文化総合センター

(A) 重点課題

○西脇市の地域資源の整備
文化財の保存

(B) 現状及び展開方針

- (1) 郷土の歴史や文化に触れることで、郷土への愛着を醸成し、市民の文化財への理解を深め、歴史と伝統のある行事の保存、伝承に努める。
 ・郷土資料館等の利用を促進する。
 ・特別展、各種講座や体験学習などを開催する。
- (2) 民俗行事・まつりなど歴史と伝統のある行事の研究を行い、地域伝統文化の継承に努める。
 ・研究紀要「童子山」を刊行する。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 文化財の保存・活用の推進	4-5-1						2 B
①郷土資料館の入館者数		入館者数	2,870人	2,846人	6,000人	3,409人	
②生活文化総合センター入館者数		入館者数	23,839人	26,346人	35,000人	26,444人	
③特別展の来館者数		来館者数	869人	1,141人	1,300人	1,141人	
④体験教室の実施回数		実施回数	3回	7回	7回	19回	
(2) 文化財の保存・活用の推進	4-5-1						3 B
研究紀要「童子山」の刊行		年1回の刊行	未刊行	刊行	刊行	刊行	

(D) 主な取組の成果

- (1) 年度当初に計画したイベント（特別展、夏季企画展、古文書講座、体験教室）を開催することができた。
- (2) 体験教室の実施回数を増やすことができた。
- (3) 研究紀要「童子山」第27号を発刊することができた。

(E) 今後の課題

郷土資料館と学校との連携（社会科カリキュラムと連動した特別展、出前講座など）をより推進する。より多くの市民に、郷土資料館の存在を知っていただき、郷土の貴重な文化財に関心を持っていただくことが課題であるため、今以上に他課及び他団体のイベントに体験教室等で出展していく。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	生涯学習課図書館
-----	----------

(A) 重点課題

○人生 100年時代を見据えた生涯学習の推進
 西脇市図書館における生涯を通じた自主学習の支援と読書活動の推進
 ・資料の充実
 ・子どもの読書活動の推進
 ・図書団体貸出の推進
 ・課題解決への支援（レファレンス）

(B) 現状及び展開方針

令和6年度末の蔵書冊数は 251,963冊となり、令和6年度末に目指していた25万冊を達成した。利用については、貸出冊数が前年度比 3.4%減の 362,714冊となり、登録者数は32,469人となった。令和7年度末には貸出冊数を38万冊、登録者数は34,000人を目指す。令和6年度の学校園等への図書団体貸出は 25,919冊で、前年度比約 6.5%の増となった。子どもの読書活動への支援を今後もさらに推進する。
 また、利用者アンケートを2月に実施し、蔵書満足度は81.0%（とても満足・満足の計）であった。今後も図書内容の充実を図り、満足度の向上を目指す。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 図書館活動普及啓発事業	3-1-6						2 B
①貸出冊数		冊数/年度	372,112冊	375,462冊	450,000冊	362,714冊	
②登録者数		延べ人数	30,938人	31,728人	34,000人	32,469人	
③読書通帳利用者数		延べ人数	9,675人	10,405人	10,000人	11,026人	
(2) 図書館用図書充実事業 ・蔵書満足度 ※利用者アンケート「図書の充実」の項目で、「とても満足」と「満足」を選択した割合	3-1-6	割合	57.4%	76.5%	70.0%	81.0%	4 B

(D) 主な取組の成果

令和6年度には 8,473冊の図書と 114点の視聴覚資料を購入し、年度末の蔵書数は 251,963冊となった。利用については、貸出冊数は 362,714冊と前年度比 3.4%の減となったが、学校園等への図書団体貸出は、25,919冊とこれまでの最高を記録した。また利用活性化に向けて、趣向を凝らしたブックレシंप等のリストの作成、配布や様々な展示を展開し、学校園等での学習や家読等の子どもの読書活動への支援を推進することができた。

(E) 今後の課題

令和6年度には貸出冊数が 362,714冊と、前年度比 3.4%の減となった。貸出密度は9.68冊となり、全国トップクラスの図書館のあかしとされる貸出密度10冊を達成できなかったが、今後も引き続き、全国トップクラスの図書館の維持に努める。
 また令和6年度末の蔵書数が 251,963冊となり、図書館の図書収納冊数を超える状況となってきた。このため閉架書庫の整備等図書の保管場所の確保に取り組む。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	学校教育課
-----	-------

(A) 重点課題

○確かな学力の育成
 (1) 主体的・対話的で深い学びからの授業改善の推進
 (2) 全国学力・学習状況調査における課題の把握・分析結果による教育施策・指導の改善・充実

(B) 現状及び展開方針

(1) 学力調査等の分析結果を通じて把握した課題に基づき、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するとともに、各学校の実情に応じた教育活動の充実を図る。
 (2) 全国学力・学習状況調査における課題の把握・分析結果を活用し、教育施策・指導の改善・充実を図る。
 (3) 分析に当たっては、各教科部会等と連携し、授業改善に直結する分析・情報交換を行う。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 全国学力・学習状況調査 授業の内容はよくわかりますか。 (当てはまる・どちらかといえば当てはまると回答：市値/全国値)	1-1-2	小6国語	84.5/84.1	89.9/85.7	90.0	88.2/86.3	3B
		小6算数	84.8/81.2	83.0/81.2	84.4	86.7/82.1	
		中3国語	89.5/81.4	90.7/80.0	91.0	82.0/82.7	
		中3数学	73.7/76.2	79.5/73.3	81.6	75.7/75.7	
(2) 全国学力・学習状況調査 対象教科における平均正答率(全国比)	1-1-3	小6国語	93	95	94	95	4A
		小6算数	90	93	92	95	
		中3国語	93	87	94	93	
		中3数学	93	86	94	95	
(3) 全国学力・学習状況調査 対象教科における正答率40%未満の児童生徒の割合(全国比)	1-1-3	小6国語	121	110	108	128	3A
		小6算数	129	110	108	113	
		中3国語	179	140	132	115	
		中3数学	108	105	101	111	

(D) 主な取組の成果

(1) これまでの実践とICTの活用を適切に組み合わせ、主体的・対話的で深い学びの視点から「子どもが主語となる」授業改善を進めていくとともに、校区を超えて横展開することで、市内全域において教育活動の高度化が進められている。
 (2) 全国学力・学習状況調査等における各校及び学力向上推進委員会で結果を分析することにより、市内全域及び各学校での課題を把握し、次年度の教育施策や学校での取組を検討している。

(E) 今後の課題

(1) 言語能力、情報活用能力、問題発見・活用能力等の学習の基盤となる資質・能力の育成を図るため、学力向上推進委員会において、全国学力・学習状況調査等の結果を分析することにより、課題や効果的な取組について具体的に検討し、実践に結びつけることが求められる。
 (2) 深い学びを実現するためには、教員がその指導力を十分に発揮することが求められる。そのためには、指導計画の精緻化や児童生徒の実態を的確に把握するなど、授業改善の基盤となる取組を見直す必要がある。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	学校教育課
-----	-------

(A) 重点課題

○豊かな心の育成
 (1) いじめ及び問題行動等の未然防止の取組や支援体制の充実
 (2) 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と考える児童生徒の育成

(B) 現状及び展開方針

(1) いじめにつながる児童生徒間のトラブル及び問題行動発生時の校内指導体制の確立が進み、組織的な対応を行っている。
 (2) 特別活動を核とした発達支持的な生徒指導の充実を図り、児童生徒がよりよい人間関係を築ける取組を推進することによって、いじめ及び問題行動等の未然防止につなげている。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) いじめ等への対応 児童生徒の刑法犯行為発生件数	1-2-3	発生件数	47件	41件	40件	67件	3 A
(2) いじめ根絶への意識高揚 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と考える児童生徒の割合	1-2-3	小学校	97.2%	98.8%	99.0%	97.0%	3 A
		中学校	94.6%	91.6%	96.0%	98.0%	

(D) 主な取組の成果

(1) いじめ及び問題行動等について、早期に発見し、迅速かつ的確に対応することにより、被害や加害の拡大を防ぎ、重大な事態に発展しないようにしている。
 (2) 教員のいじめに対する認識や指導体制の更なる強化を図ることができた。「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と考える中学生の割合が大きく増加している。

(E) 今後の課題

(1) 児童生徒の安全・安心な学校生活を確保するため、いじめ及び問題行動等の早期発見・初期対応を組織的に行う体制を維持するとともに、関係機関との連携強化を図る。
 (2) 児童生徒の健全な成長を促すため、引き続き、発達支持的な生徒指導の実践を推進する。特別活動等を中核とし、児童生徒が主体となる学級・集団づくりを促進することで、いじめ及び問題行動等の未然防止を図る。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課 学校教育課青少年センター

(A) 重点課題

○多様なニーズに対応した教育機会の提供
不登校児童生徒の教育機会の確保

(B) 現状及び展開方針

- (1) 長期休業明けの欠席児童生徒の把握を基にした学校への指導
- (2) 不登校児童生徒への学習指導や進路指導、社会的自立に向けた取組を行うため、はればれ教室を運営
- (3) はればれ教室と校内サポートルームとの連携を図り、不登校児童生徒の学びの機会を広げる。
- (4) 不登校課題の解決に資するため、教員を対象とした不登校対策連絡協議会の開催（年2回）
- (5) 様々な悩みや課題を抱える児童生徒や保護者、教員に対し教育相談の実施

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 不登校児童生徒の出現率	3-4-2						3 A
①不登校児童 小学校		出現率	1.8%	2.2%	2.0%	1.7%	
②不登校生徒 中学校		出現率	4.5%	7.1%	6.2%	9.0%	
(2) 不登校児童生徒の学びの場の確保	3-4-2						3 A
①はればれ教室		在籍者数	18人	19人	20人	13人	
②校内サポートルーム（中4校・小2校）		利用者数	-	-	60人	50人	

(D) 主な取組の成果

- (1) 不登校児童生徒の実情に沿った内容で不登校対策連絡協議会を開催した。また、課題を抱える児童生徒、保護者に対し教育相談や、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによるカウンセリングを実施した。
- (2) 教室以外の多様な学びの場として、はればれ教室とともに全中学校及び小学校2校に不登校児童生徒支援員を配置し、校内サポートルームでの支援の充実を図った。校内サポートルームとはればれ教室の併用や、学校での給食や行事への参加等、個々のニーズに応じた支援につながった。

(E) 今後の課題

- (1) 校内サポートルームやはればれ教室といった個々のニーズに応じた多様な学びをさらに充実できるように、不登校児童生徒支援員とはればれ教室指導員の連携を図る。
- (2) 個々の実情に合わせ、きめ細かな学習指導を行うとともに、基本的な生活習慣が身に付き、規則正しい生活が送れるよう生活指導を行う。
- (3) 進路指導については、通級する生徒自らが進路を切り拓く力が身に付くよう指導する。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	学校適正推進課
-----	---------

(A) 重点課題

○安全・安心で質の高い教育環境の整備
学校学習環境規模の適正化推進

(B) 現状及び展開方針

- 教育を取り巻く環境が大きく変化し、児童生徒数が減少する中、持続可能な教育環境を構築するため学校の規模及び配置の適正化について課題等を整理し、今後の推進方針を策定する。
- 学校学習環境規模適正化検討会議からの答申を尊重し学校学習環境規模適正化推進計画を策定する。
- 推進計画に基づき、統合校の開校準備を行う。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価(達成度)
					目標値	3月末実績値	
(1) 学校学習環境規模適正化推進計画の改定	4-3-2	計画改定	未	計画策定	計画改定	改定済	2 B
(2) 開校準備委員会の設置	4-3-2	会議設置	未	未	委員会設置	委員会未設置	2 B

(D) 主な取組の成果

- 西脇東中学校と黒田庄中学校の統合校として活用する校舎は協議により決定するとしていたが、統合懇談会等の結果を踏まえ、令和6年11月に活用する校舎を西脇東中学校に決定し、同年12月に推進計画の改定を行った。
- 開校準備委員会については、会議趣旨や組織などについて規定した開催要領を令和7年1月に定めた。なお、委員会の設置は、統合校に係る説明会等の開催を経て、令和7年度に実施することとした。

(E) 今後の課題

- 推進計画の改定を行ったが、改定後も統合対象となる一部校区の住民から様々な意見が出されており、計画の推進について、住民の理解と合意形成を図っていく必要がある。
- 推進計画に定めた統合スケジュールが円滑に進むよう、関係者の理解を得ながら開校準備委員会を開催、運営する必要がある。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	幼保連携課
-----	-------

(A) 重点課題

○確かな学力の育成
就学前教育・保育の充実
(課題別研修・現場交流事業)

(B) 現状及び展開方針

幼児教育センターを核とした各種研修事業及び現場交流事業を実施する。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
課題別研修・現場交流事業							3 B
①課題別研修会	1-1-1	開催回数	19回	19回	19回	19回	
②園小相互参観		実施 校園数	8園 8校	8園 8校	8園 8校	8園 8校	

(D) 主な取組の成果

園小架け橋研修会では、小学校教諭の参加もあり、認定こども園保育教諭とお互いの教育や園小接続カリキュラムについての理解を図り、円滑な接続に向けた機会となった。研修対象を各学年担当別にした教育・保育内容研修は、それぞれの発達年齢に応じた課題に焦点化した研修となった。特別支援学習会では、子どもの特性を理解し、特性に配慮した適切な支援を行うための研修を実施することができた。

(E) 今後の課題

保育教諭等の更なる資質向上を図るため、幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿を表す10の姿の視点を加えた「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」の理解を深めるとともに、経験年数や担当学年ごとの課題に応じた研修内容を充実させる必要がある。また各園から要望の多い、園小の円滑な接続のための研修会や特別支援学習会において、研修内容や方法を工夫する。

令和6年度西脇市教育委員会事務事業評価シート

担当課	幼保連携課
-----	-------

(A) 重点課題

○確かな学力の育成
 就学前教育・保育の充実
 (就学前教育・保育の質の向上推進委員会)

(B) 現状及び展開方針

就学前教育・保育の質の向上推進委員会委員による園訪問等を通じ、「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」に基づく教育・保育の提供体制の現状及び課題を把握し、必要な指導助言を行う。

(C) 取組の状況

事業名	教育振興基本計画等における位置付け	項目	4年度	5年度	6年度		自己評価 (達成度)
					目標値	3月末実績値	
就学前教育・保育の質の向上推進委員会	1-1-1						3B
①委員会の開催		開催回数	3回	3回	3回	3回	
②訪問指導		実施回数	30回	28回	28回	28回	

(D) 主な取組の成果

質の向上推進委員会委員による前期・後期の訪問指導は、各園の状況や要望を踏まえ、希望する園には、保育内容と特別支援を別日で訪問した。別日にする事で、参観や保育教諭との面談時間を確保でき、よりきめ細かな指導助言につながった。委員会を設置して6年が経過し、各園とも、自己評価による保育内容の点検や振り返り、訪問時の指導助言に基づく改善・見直し、実施のPDCAサイクルが定着してきている。

(E) 今後の課題

今後は、各園において、10の姿の視点を加えた「西脇市就学前教育・保育カリキュラム」の内容に基づく自己評価を行い、自らの特性や強み、課題を明確化し改善につなげるサイクルが定着するよう助言を行うとともに、当該カリキュラムの理解を図り、更なる就学前教育・保育の質の向上を図る必要がある。また、0歳から15歳までを見通した教育・保育体制の構築に向け、令和5年度に策定した園小接続カリキュラムの運用を推進し、園小接続カリキュラム研究委員会において運用後の検証・改善を図り、就学前教育と小学校教育との連携を強化する。

学識経験者による意見

1 兵庫教育大学大学院 大野裕己教授による意見

1 課所別の事業点検評価の結果

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
教育総務課	学校教育施設の計画的、効率的な整備の推進	<p>「西脇市立小中学校教育施設長寿命化計画の改定」については、令和5年度に引き続き目標を下回る進捗となり（学校の統合（活用施設検討）との整合を取る必要により、改定作業の一部を次年度に繰越し）、達成度自己評価2Bは妥当と捉えられる。ただし、統合については地域における丁寧な合意形成も求められるところであり、必要な時間を投じての進行と理解する。</p> <p>施設管理の経費・負担適正化の観点から、学校水泳民間委託の準備を行った点は積極的に受け止められる。他方で安全・安心を第一に保障する観点での取組検証等にも留意いただきたい。</p> <p>環境変化や市の学校施設老朽化も進行しているところであり、危険箇所等を中心とした施設早期修繕にも意が尽くされているが、総合的な方針・計画のもとでの施設整備推進の段階に早期に移行することが期待される。</p>
教育総務課 学校給食センター	子どもの健康の保持増進をはじめとする食育の充実	<p>「食中毒事故件数」0件維持など給食の安全性が確保されるとともに、「栄養教諭による食育指導」も、ここ数年継続的に回数を増加できている（目標値も大幅に上回る）点を高く評価できる。栄養教諭の努力はもちろん、学校給食センター・各学校での目標共有と協働が図られていることの成果と捉えられる。このような取組が、今後も家庭の理解・信頼も得て継続していくことを期待したい。</p> <p>「学校給食残菜率」は、目標未達で自己評価2Bとなっているが、前年度実績は改善できており、関係職員の残菜量の計測・要因分析を通じた調理方法等改善の努力が奏功していると推察されることからやや厳しい評価とも感じられた。この項目の目標値4.5%は、過去同水準の実績を残した年度はあるもののハイレベルの目標設定とも捉えられる。それだけに生活習慣の視野を含めた家庭の理解・協力増進のアプローチ（教育委員会と首長部局の連携も一層求められよう）も大切にしながら、目標達成への取組を積み上げてほしい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
教育総務課 学校給食センター	学校給食における地産地消の推進	<p>「地産地消率」は、目標値・令和5年度実績値ともに下回る結果となった。天候不順などやむを得ない側面も推察されるが、野菜生産者グループ高齢化（会員脱退）等、一過性と言えない課題もある。特に市内野菜生産者の変化については、当面部局横断での対応を図りながら、安定的な地場産物活用につなげてほしい。</p> <p>また、今後の給食における地産地消と関わっては、教育創造にしわきプランにも盛り込まれた、給食や当地食材等について子どもとともに考える機会の充実等、食育との効果的連動についても一層の検討と推進を期待したい。</p>
人権教育課	多文化共生教育の推進	<p>前年度までの水準を維持して、日本語指導が必要な児童生徒への「子ども多文化共生サポーター」派遣、外国人園児や保護者への「多文化共生キッズサポーター」派遣が、必要／申込数に対して100%派遣を維持できており、いずれも達成度自己評価3Bは適切である。また、国際理解・異文化理解の内容も盛り込んだ、にしわきジュニアじんけん教室も前年度同様に開催するなど、多文化共生教育の基盤づくりにも取り組んでいる。</p> <p>事業評価シートでも確認されたように、サポーターの人材確保や外国人児童生徒等のニーズの多様化が課題であり、ICTやAIを活用した支援の開拓、さらに児童生徒の学び・育ちの「こまりごと」に感度高く対応できる学校の受入れ態勢構築（教育委員会の人的・情動的支援）についても、今期期間内に進展することを期待したい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
人権教育課	人権に関する学習機会の充実	<p>令和6年度は、市内8地区での人権講演会（「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間講演会）が対面及び一部オンライン併用で開催できた。そのほか、にしわきジュニアじんけん講座、人権啓発資料等を通じた発信も多様なバリエーションで実施できており、市民各層が現代社会の人権課題について関心をもって学べる条件整備に努めていることがわかる。</p> <p>ただし事業評価シートでは、上記人権講演会について、若年層参加は増えた一方、「たいへん満足」と回答した参加者割合が目標値を下回ったこと等を踏まえて自己評価2Bとしており、教育委員会における課題意識が示されている。令和6年度人権講演会と関わって多面的なテーマ・講師選定の努力が窺われるところであるが、企画段階での市民の課題意識の把握、主体的学びを促す実施方式等について一層の充実の余地はあるかもしれない。上位目標と言える「市内では、全ての人の人権が尊重されている」と感じる市民割合向上を念頭に置いた、取組の継続が期待される。</p>
生涯学習課	生涯を通じた芸術・文化活動の推進	<p>西脇市の特性を生かした芸術・文化活動をアートサポーターとの連携で企画・実施できている点は評価できるが、本事業の指標に掲げた「過去1年間に芸術・文化活動を行った」と回答した市民割合の漸減傾向・目標値未達が長期的に続いている点には正対する必要があるだろう。</p> <p>アートサポーターの市芸術・文化活動への関わり・支援は、会議開催回数に単純に規定されるものではないと考えられるが、年間プロセスの検証・改善は適時図っていく必要があるだろう。加えて、これらの事業について、多様な市民の参加（担い手の育成）も含めた事業推進の枠組み構築も検討に値すると考える。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
生涯学習課	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	<p>啓発的スポーツイベントを市民各層の参加しやすさを意識し企画・実施できているものの、事業評価シート記載の事業については参加者数が膠着状態にある可能性も認められる。指標とした（過去1年間に）週1回以上、スポーツ・レクリエーション活動をした市民の割合も中長期での伸び悩み傾向が認められる。したがって、本事業の達成度自己評価2Bは妥当と考える。</p> <p>令和5年度事業評価に続いて今後の課題として盛り込まれたように、スポーツ・レクリエーションの実施頻度が低い市民層の思い・ニーズに寄り添う取組・企画の推進が急務と言えるほか、中学校部活動地域展開の動向も意識しつつ市内のスポーツ指導者・ボランティアの育成確保にも注力してほしい。</p>
生涯学習課 中央公民館	<ol style="list-style-type: none"> 1 高齢者等の生涯学習の推進と生きがいづくり 2 地域貢献活動の推進 	<p>「地域貢献活動推進」について目標値未達により自己評価2Bとしているが、施策の核をなす西脇シニアカレッジについては、自治体協力等実効性ある広報活動を通じて学生数が増加していること、また「シニアカレッジ主催の講座への参加率」も上昇していることから、事業の総体としては充実の方向にあると思量される。ただし、市ウェブサイトにおける広報への最新情報掲載などには、さらなる改善の余地があるかもしれない。</p> <p>このような学習機会において、個人内における学びの効力感、学生等間の交流の活性化をまず増進しながらも、学びの成果等の地域還元機会づくりにも一層の支援・条件整備に努めていただき、施策の所期のねらいを達成していただきたい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
生涯学習課 中央公民館	現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進	<p>「公民館運営講座」「公民館自主運営講座」の講座事業は、受講者・開設講座数が全体に目標値未達のためいずれも自己評価2Bは妥当と考えられる。民間事業者も考慮しつつ講座編成や内容面の見直しを施し一定数の受講者を得ることができた点は、前向きに受け止められよう。ただし、今後においては、本事業の測定指標（これまでの学習を通じて身に付けた知識・技能、経験を、地域や社会での活動に生かしていると思う市民の割合）の確認も念頭に置いて本事業の効果を検証することも必要と思われた。</p> <p>本事業評価シートに記載された講座生・受講者の今日的状況に照らすと、現状の見直し努力のみで講座等の長期的な持続は容易ならざることも意識される。講座事業の継続を考えるうえでは、市民ニーズの掘り起こしの工夫に加えて、公民館講座の固有性を意識した改善、例えば多世代交流や学びの成果還元の見点から学社融合・コミュニティ・スクールとの連動などの新機軸の検討（その裏付けとなる職員配置の改善も別途課題となろう）なども検討に値するだろう。</p>
生涯学習課 生活文化総合センター	文化財の保存	<p>郷土資料館は、基幹的な文化財・郷土資料の収集保存及び常設展示のほか、企画展・特別展・講座等のイベントについても、地域の歴史・文化に関わる内容を積極的に企画できている。令和6年度は特別展における小学校教材対応の考慮や体験教室の回数増加など、学校との連携にも注力されたことが窺われ、若年層の文化財理解に向けた取組の具体的前進を評価できる。</p> <p>郷土資料館の入館者数はフィールドパビリオンツアーによる資料館団体見学受入等もあって大幅に増加しているものの、目標値に到達できていない。生活文化総合センター入館者数の目標未達とあわせみて、本事業（文化財の保存）の自己評価2Bは適切と考えられるが、目標値の設定（6,000人）については、その妥当性の多角的吟味が期待される。一方で、施設の取組の市民等への周知についても、戦略的広報の余地が残っているようにも感じられた。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
生涯学習課 図書館	西脇市図書館における生涯を通じた自主学習の支援と読書活動の推進	<p>「図書館活動普及啓発事業」としては、貸出冊数・登録者数が目標値未達のため自己評価2Bとなっている。試みにコロナ禍直前の令和元年度実績値と比較すると、登録者数は増加、貸出冊数は増加の年度もあるものの全体的には減少傾向と捉えられることから、市民への読書機会の提供の点からは、上記の要因検討に基づく対応が期待される（これも目標値自体の妥当性の吟味が必要となるかもしれない）。</p> <p>ただし、西脇市図書館の読書推進の内実については、貸出密度、利用者アンケートによる蔵書満足度は高い水準を維持し、学校園の読書活動の支援の取組も前進させていることから、良好な状況にあると捉えられる。図書館の収容能力の限界について具体的な方策を実行しつつ、新規配架等を通じた蔵書内容の充実にも努め、市民の読書活動を引き続き支援していただきたい。</p>
学校教育課	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的・対話的で深い学びからの授業改善の推進 2 全国学力・学習状況調査における課題の把握・分析結果による教育施策・指導の改善・充実 	<p>令和6年度「全国学力・学習状況調査」の各教科平均正答率は、年度目標値を概ね上回っており、今期期間内の目標（両教科とも全国比100%）達成に向けて意義あるスタートが切れたと捉えられる。高難易度／目標以上の達成とした自己評価4Aも理解する。</p> <p>全国学力・学習状況調査は、対象学年児童生徒の学力の一部を計測するもので、当該学年の文脈に左右されやすい点は留意が必要である。ただし西脇市では、児童生徒質問紙項目「授業の内容はよく分かりますか」の肯定率も両校種とも全国平均を上回る水準を維持しており、正答率40%未満の児童生徒割合も緩やかながら改善傾向にある。以上より、西脇市においては、市学力向上推進会議、各学校両レベルの児童生徒の学びの変革を促す授業改善の研究・研修が各教員の授業実践に届き、児童生徒の資質・能力を保障しつつあると推察される。</p> <p>これまで市教委・学校教員で創り上げた授業改善PDCAの風土を今後も持続することを期待する。加えて本事業の点検・評価としては、教委・学校単位の改善行動に関わる指標（例えばリーディングDXの取組やその成果共有などが考えられる）も「主な取組の成果」欄等で設定して各年度で総括し、インプット→スループット→アウトカムを構造的に点検する工夫も今後検討いただけるとよい点を指摘したい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
学校教育課	<p>1 いじめ及び問題行動等の未然防止の取組や支援体制の充実</p> <p>2 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と考える児童生徒の育成</p>	<p>いじめ及び問題行動の未然防止について、昨年度までに学校のいじめ認知意識が高まったと捉えるところから、新たな教育創造にしわきプランでは、新たな指標として学校内での児童生徒の刑法犯行為発生件数（児童間暴力・対教員暴力など）が設定された。令和6年度については過去2年度より実績値が増加していることがわかるが、この増加の背景にある要因を丁寧に検討し、各学校での組織的対応及び教育委員会の学校支援につなげていただきたい。</p> <p>これまでの教育委員会の定期調査、学校での児童生徒の人間関係構築、専門スタッフ等活用の取組を通じて、児童生徒のいじめ根絶への意識（「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」肯定率）はここ数年高い水準を維持している。今後も上述の取組は維持・継続するとともに、コロナ禍以後の環境変化に基づく児童生徒の育ちの課題の検討やそれを踏まえた指導の充実に取り組んでいくことを期待したい。</p>
学校教育課 青少年センター	不登校児童生徒の教育機会の確保	<p>新型コロナウイルス世界的流行を含む大きな環境変動期にあって、不登校は取り巻く環境によってはどの児童生徒にも起こり得るものと捉え、社会的自立を大切にしたい対応が求められている。</p> <p>そのような中、西脇市では従来の適応指導教室（はればれ教室）に加えて、令和6年度に全中学校及び小学校2校に校内サポートルームを設置し不登校児童生徒支援員を配置している。上記両方で目標値に概ね相応して、必要とする児童生徒に支援を提供できていると考える。不登校児童生徒の出現率も小学校で減少がみられるなど、こうした学びの場を介して学校復帰等の事例も生まれている可能性を認めることができる。以上より、不登校児童生徒の出現率、不登校児童生徒の学びの場の確保をそれぞれ3Aとした自己評価は適切と考える。</p> <p>各学校での専門スタッフと連携した児童生徒のこまごまに寄り添う取組は継続するとともに、適応指導教室と各学校との適切な連携・情報交流を強化しながら、多様で適切な教育機会の確保を推進していきたい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
学校適正推進課	学校学習環境規模の適正化推進	<p>令和6年度内に、中学校の統合と関連した学校学習環境規模適正化推進計画改定は進行したものの、開校準備委員会の設置には至っていない。</p> <p>西脇市における児童生徒数減少の推計等の厳しい現状・見通しを背景に、学習環境・学校規模両面での適正化の必要性は関係者で共有されていると捉えられる。学校の統合の具体的手続は、行政からの適切な情報提供を基盤に、地域での児童生徒の望ましい育ちを核に据えた熟議と合意形成を丁寧に進めて決めていくことが肝要であり、教育委員会が、この点で求められる条件整備に一層注力していくことを期待したい。</p>
幼保連携課	就学前教育・保育の充実	<p>令和5年度までの水準を継続して、就学前教育・保育の質の向上推進委員会委員による訪問指導、研修・相互参観事業が実施された。新しい教育創造にしわきプランで上方修正的に設定された目標値も満足しており、それぞれの事業で3Bとした自己評価は適切であり、加えて訪問指導・研修とも内容面の充実が具体的に図られた点は高く評価できる。</p> <p>就学前教育を担う教員の要望・願いに寄り添う指導助言・研修の充実が今後も図られていくことを期待するとともに、さらに園小における接続カリキュラムの共通理解に基づく指導充実、保護者支援の充実にも一層具体的に取り組んでいくことを期待したい。</p>

学識経験者による意見

2 元小学校教員 岡本多歌子氏による意見

1 課所別の事業点検評価の結果

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
教育総務課	学校教育施設の計画的、効率的な整備の推進	<p>西脇東中学校と黒田庄中学校の2027年度の統合を見直す方針を決定したため、「西脇市立小中学校教育施設長寿命化計画の改定」については、学校の統合と整合を図る必要があるため、改定作業の一部を令和7年度に繰り越した。そのため自己評価2Bは妥当であると考えます。統合の具体にかかる検討は慎重に行われるべき事項である。</p> <p>統合という課題を抱えながら、学校施設の耐震化の工事を完了し、学校施設営繕事業等において、小学校で99件、中学校で51件の修繕を実施し教育環境の整備も図られている。安全で安心な教育環境の整備は不可欠な課題である。</p> <p>老朽化した学校施設の修繕だけでなく、新しい教育環境・教育施設の検討も必要となる。児童生徒を取り巻く教育環境は近年変化してきた。今まで以上に気温が上昇する夏の体育指導は、新しい環境が必要となってくる。今後の課題に、体育館の空調設備整備とあった。財政面との関わりが大きいこの事業の実施を期待している。</p>
教育総務課 学校給食センター	子どもの健康の保持増進をはじめとする食育の充実	<p>食育だよりの発行に加え、栄養教諭が学校に出向いて食育指導をした回数が、目標値の145回を大きく上回った277回であったということは、自己評価4Bは妥当であると思う。</p> <p>また、学校給食での食中毒事故が、本年度も0件であるということは、当然そうあるべきことではあるが、衛生管理が行き届いているということであり、高く評価できる。</p> <p>児童生徒の食物アレルギーは、それを引き起こす食べ物も、その症状も多様化し、偏食も多い。残菜率を分析し、栄養バランスを考え、味付けや調味方法を検討して考えられた献立。嗜好の偏りをなくすように配慮した魅力あるおいしい給食の提供。報告書にはないが、近年の物価高に伴う、材料費、給食費との兼ね合いも頭を痛める課題であると思われる。</p> <p>ある小学校の給食の写真が世間を賑わせた。唐揚げ1個の給食（栄養的には問題はないとの返答だったが）の写真がニュースで取り上げられたからである。栄養・量・材料費・給食費等を考えたら他人ごとではない。課題は多いが子どもの健康のために関係者の頑張りに期待したい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
教育総務課 学校給食センター	学校給食における地産地消の推進	<p>食材価格の高騰の中、地場産食材の野菜を、給食食材に優先して使うために、毎月の野菜生産者グループ例会や、農林振興課、北はりま旬菜館と三者会議の開催など、地産地消への取組は素晴らしい。</p> <p>ただ、天候不順や、野菜生産者グループの高齢化に伴う会員の脱退があり、地産地消率の実績値が目標値を下回ったのは、仕方がないとはいえ、自己評価2Bは、妥当であると思う。</p> <p>天候と生産者の高齢化、それに伴う生産者確保の問題は、今後も避けて通れない課題であるが、黒田庄和牛のコロッケ、金ゴマ、イチゴなどの提供が今後も続くように関係者の努力に期待したい。</p>
人権教育課	多文化共生教育の推進	<p>「子ども多文化共生サポーター派遣事業」、「多文化共生キッズサポーター派遣事業」とともに、100%派遣できたことから、自己評価3Bは妥当であると考えます。</p> <p>西脇市も年々日本語指導が必要な児童生徒が増えてきた。報告書にもあるが、背景（言語・年齢・在留期間・日本語習得状況等）が多様化している。複数の国の子どもが同じ教室で学習している学校もある。一人一人に寄り添った支援の在り方が学校全体で共有され、その取組は構築されているだろうか。</p> <p>支援体制の充実で、児童生徒の学校への適応はうまくいっても、その保護者が、生活適応に苦しんでいることがある。子どもが日本語を習得しても、日々の学校生活の中で、母国語や母文化に対する思いを表出することはあまりない。</p> <p>多文化共生教育の推進は、日本語指導が必要な児童生徒の日本語の習得、そのためのサポーター派遣と人材確保に終わらず、その指導内容の検討、学校全体での多文化共生教育の推進、保護者支援等、教育現場だけでなく関係機関と連携を取りながら、取組を発展させてほしい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
人権教育課	人権に関する学習機会の充実	<p>「人権文化をすすめる市民運動」推進強調月間での、8月に開催された、市内8地区での人権講演会は、参加者1,394人中オンラインが481人で、そのうち若年層の割合が目標値を上回る結果となったことは、若年層が参加しやすい環境設定が、効果的であった結果である。しかし、講演会の講演内容に満足した参加者の割合が減少している結果を見ると、自己評価2Bは妥当であると考えます。</p> <p>参加層が広まったことにより、講師の選定、講演の内容などの検討がより必要となるだろう。各世代が求めるものは異なるだろうが、それを把握し、講演や研修に反映させる内容面の工夫が課題となる。</p> <p>リアルタイム配信・オンデマンド視聴の選択など参加者の広がりを目指した取組は、その効果を得ている。あらゆる世代が参加しやすい学習機会の充実を目指して、関係者の努力に期待したい。</p>
生涯学習課	生涯を通じた芸術・文化活動の推進	<p>アートサポーター、生涯学習課、西脇市文化・スポーツ振興財団、市民交流施設指定管理者が提携した芸術・文化活動は、年々その分野を広げ、内容も充実している。しかし、過去1年間に芸術・文化活動を行ったと回答した市民の割合は、目標値を下回る38.8%になり、令和4年度から毎年減少している。その点で自己評価2Bは妥当であると考えます。</p> <p>市民に対して事業に触れる機会を広げ、質の高い芸術を提供していることは大変喜ばしい。アピカやオリナスホールでの演奏会、劇団四季のファミリーミュージカルの開催も今後も続けてほしい。</p> <p>市民の求める芸術・文化の分析、市民の活動状況を規定する要因の分析、活動意欲を喚起する事業の構成など、課題も多いが、今後も、市民が芸術・文化事業に触れる機会の創出を望んでいる。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
生涯学習課	ライフステージに応じたスポーツ活動の推進	<p>人生 100年時代と言われ、健康寿命の増進や、健康であるためのスポーツ活動の重要性や必要性は、周知の必要がないほど、誰もが理解していることだろう。</p> <p>卓球無料開放デー、ボッチャ教室、ユニバーサルスポーツ出前講座、市内ウォーキング会など、スポーツに親しむ機会づくりがなされているながら、過去1年間に週1回以上、スポーツ・レクリエーション活動をした市民の割合が目標値に達していない。報告にもあるように、参加者の固定化が原因の一つだろう。</p> <p>スポーツやレクリエーションは、健康寿命を延ばすためには必要と分かっているながら、なかなか始めようとならない人は少なくない。実施頻度が低い人や関心のない人が、気軽にスポーツに親しむための内容の考察や機会を増やす工夫など、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進に期待している。</p>
生涯学習課 中央公民館	<p>1 高齢者等の生涯学習の推進と生きがいづくり</p> <p>2 地域貢献活動の推進</p>	<p>シニアカレッジの学生数は増加し、講座の内容も教養講座、専門講座、趣味講座と内容は充実しており、学年を超えて受講できるものもあり、多様な学習機会を提供している。講座への参加率は、目標値に達してはいないが、去年度を上回る実績値であるので、3Bは妥当であると考えます。</p> <p>人生の後半に、自分を成長させ豊かな人生を送るために、自由に選択できる学習機会があり、趣味や特技を生かせる場があることはありがたい。学生の年齢構成の約7割を75歳以上が占めているためか、60代では関心の低い内容もあり、今後は、講師・講座内容の検討も必要ではないかと考える。</p> <p>地域貢献活動については、目標値は下回っているが実績値は年ごとに増えている。いろいろな講座で地域貢献活動への参加の機運が高まり、今後複数の講座が地域貢献活動に参加する見込みとあった。シニアカレッジでの学習が、地域貢献活動に発展できるように学習内容の検討と再構築を期待したい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
生涯学習課 中央公民館	現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進	<p>「人生 100年時代」「超スマート社会 (Society5.0)」に向けて、生涯学習の重要性は一層高まっている。生涯学習の様々な講座を公民館講座、市民による自主運営講座、シニアカレッジ講座に区分した取組は、市民の学習機会の充実した提供になっているし、学習意欲の高揚にも役立っている。自己評価2Bは、目標値を下回る結果となったためだろう。その点では妥当であると考えます。</p> <p>重点課題に「現代的・社会的な課題に対応した学習等の推進」とあるが、報告にあった公民館運営講座の内容は、現代的・社会的な課題に対応しているとは言にくい。子どもを対象にした講座事業においては、公民館で学ばせたいという保護者は、多いと思われる。講座定員数の見直しを含め、講座内容の検討、指導者の検討等課題があるが、新規講座生の増加に向けて頑張ってもらいたい。</p>
生涯学習課 生活文化総合センター	文化財の保存	<p>計画していた特別展・夏季企画展・古文書講座・体験教室が開催でき、郷土資料館、生活文化総合センターの入館者数は増えている。また、教室の実施回数は昨年度(7回)の2倍以上(19回)なのに、自己評価2Bなのは、少し厳しすぎるように思う。入館者数が、その目標値に達していないせいだろうと推測されるが、これについては、期末目標値が高すぎたようにも思われる。</p> <p>郷土資料の収集保管、郷土史や文化財に関する調査研究、展示を通じて地域伝統文化の継承に努めている。小学校の社会科のカリキュラムと連動した見学や出前講座の実践は、昔の生活道具や農具を実際に見て触れることで、興味や理解を深める手立てとなっている。</p> <p>今後も、子どもの感じた昔の道具への驚きや興味が、家族に広がり、郷土の文化財に関心を持つ人が増え、郷土資料館に足を運ぶ人が増えることを期待したい。</p>

担当 課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
生涯学習課 図書館	西脇市図書館における生涯を通じた自主学習の支援と読書活動の推進	<p>西脇市図書館は、静かで明るく、蔵書数も多く、読書環境に優れた場所である。報告にも蔵書冊数が25万冊に達したとあり、登録者数も増えている。貸出冊数が目標値に達していないので、2Bという自己評価だと思われるが、厳しい評価のように思う。そもそも、令和6年度末で貸出冊数が45万冊という目標値は高すぎるように思うので、令和7年度末の目標値を38万冊に修正したのは適切であると考え</p> <p>蔵書満足度が、81%と増えているのは、単に蔵書数の多さだけではないだろう。図書館に一步足を踏み入れると、本を手にとらせる工夫が様々になされている。筆者、著者に関係なく、1つのテーマに関係する本を集めた展示、ブックレシピ、おすすめの本の紹介、アンケートからの本のランキング表、お話し会、読書会、本のリサイクル市等々。このような読書活動の推進に向けた関係者の努力に対して、高く評価したい。</p>
学校教育課	<ol style="list-style-type: none"> 1 主体的・対話的で深い学びからの授業改善の推進 2 全国学力・学習状況調査における課題の把握・分析結果による教育施策・指導の改善・充実 	<p>全国学力・学習調査においては、対象教科における平均正答率（全国比）が、目標値を上回っており、自己評価4Aは妥当であると思う。これまでも、全国学力・学習調査の結果を、学力向上推進委員会において分析することで、課題を見つけ、指導の改善、充実を図ってきた。また、各教科部会等と連携し、授業改善に直結する分析、情報交換も行われている。しかし、課題が分かったものの、各学校で担当者からそれが共有されているだろうか。その共有された課題が実践に結びついているだろうか。課題の把握や分析から、実際の授業改善までには、教員のたくさんの研究、努力、熱意が必要である。</p> <p>令和7年の7月に、文部科学省が「主体的に学習に取り組む態度」を観点別評価から外す方針を示した。「主体性」の評価が難しく教員間格差が生じやすいためとあったが、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、各学校において、「深い学び」をどう捉えていたのだろうか。この目標の理解や実践において、教員間格差はなかったのだろうか。</p> <p>各学校が、一人一人の教員が、この目標をどう捉えどう理解したか、その実現にむけて指導性を発揮し、どのように授業実践に生かし、授業改善したかについて、学校はもちろんのこと、市全体で具体的な授業改善の取組を構築してもらいたい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
学校教育課	<p>1 いじめ及び問題行動等の未然防止の取組や支援体制の充実</p> <p>2 「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と考える児童生徒の育成</p>	<p>いじめ及び問題行動は、早期発見・早期対応・未然防止に努めなければならない。校内指導体制の確立が進み、組織的な対応を行っているという報告は評価できるが、児童生徒の刑法犯行為発生件数が目標値（40件）を大きく上回り、67件（昨年度は41件）であり、26件も増えていることで自己評価3Aは妥当であると考えます。</p> <p>いじめ及び問題行動等の対応は、担任だけでなく、学校が組織として情報を収集し、関係機関と連携する必要がある。校内では、定期的なアンケート調査や教育相談で子どもの声を拾い、家庭や地域にも情報を発信していくことでいじめに対して対応してもらいたい。</p> <p>これから増えると思われる、インターネットを通じて行われるいじめや問題行動への対応には、より、警察や専門機関と連携した指導や対応が必要となるだろう。それには、情報モラル教育の充実と教員の指導力向上、保護者に対するインターネット利用に伴う危険性の周知も必要である。</p> <p>いじめはどんな理由があってもいけないことだと考える児童生徒の割合は、中学校で98%と大きく増加しているのに、自己評価3Aは、やや厳しい評価のように思う。ほとんどの児童生徒がいじめはだめだと考えている中で、それとは違う意見を持つ数人の子の声を聞いてみたい。</p>
学校教育課 青少年センター	不登校児童生徒の教育機会の確保	<p>不登校児童生徒への支援は、「不登校児童生徒配置補助事業」を実施し、中学校4校、小学校2校に、校内サポートルームを開設した。教室に行けない児童生徒にとって、はればれ教室とともに、教室以外の居場所ができた。</p> <p>しかし、不登校児童生徒の出現率は、指導生徒数の減少にもかかわらず、年々増加し、本年度は2年前の倍（9%）となっている。はればれ教室生13人（あくまで在籍数であり毎日登級できる子はわずかである。）、校内サポートルーム利用者数50人であるが、市内の不登校生は116人という現実を考えると、自己評価3Aは妥当であると考えます。活動の見直しや、効果的な取組についての具体的な実践の検討など、今後の課題は多い。</p> <p>校内サポートルームを開設しただけでは、児童生徒の個に応じた支援の充実は望めない。はればれ教室と併用している生徒もいることから、校内サポートルームの支援員とはればれ教室の指導員との連携は、今後の大きな課題である。校内サポートルームの支援員は、免許の有無を問わない地域人材の登用であることから、個に応じた学習、生活支援は難しいと思う。個に応じた支援ができるよう、複数の教員が関わり、校内支援体制の強化が必要である。</p> <p>はればれ教室にも校内サポートルームにも行けない不登校児童生徒の実態をつかみ、少しでも多くの不登校生が、安心して居られる教室づくりを目指した関係者の努力を期待したい。</p>

担当課	令和6年度の重点課題	課所の事業及び自己評価に対するコメント
学校適正推進課	学校学習環境規模の適正化推進	<p>持続可能な教育環境を構築するため、学校の規模及び配置の適正化について課題等を整理し、教育方針を策定した。また、学校学習環境規模適正化推進計画を策定し、それに基づき、統合校の開校準備を行った。しかし、開校準備委員会の設置は、未設置に終わり、令和7年に持ち越された。これらの点から、自己評価2Bは妥当であると思う。</p> <p>西脇東中学校と黒田庄中学校との統合は、校区の住民、保護者からの様々な意見が出される中で、計画を慎重に推進していかなければならない。今後は、推進計画に定めた統合スケジュールを進め、住民の理解を得ながら合意を図る計画推進に努めてほしい。</p>
幼保連携課	就学前教育・保育の充実	<p>園小架け橋研修で、認定こども園保育教諭と小学校教諭とで、園小接続カリキュラムへの理解を図った。課題別研修会では、研修対象を各学年担当別にし、発達年齢に応じた課題の研修ができた。園小相互参観も8園8校実施され、自己評価3Bは妥当であるとする。合同研修・相互参観の実施で、園小の架け橋プログラムが実施されている。</p> <p>就学前教育・保育の質の向上推進委員会による訪問指導は28回実施され、各園の状況や要望を踏まえ、希望する園は、保育内容と特別支援を別日で行った。このことは、より細かな指導助言を受けられる結果となり、自己評価3Bは妥当であると思う。</p> <p>幼児教育のカリキュラムは、小学校移行の教育を見通しながら、その基礎となる資質・能力を育成していくカリキュラムでなければならない。自然の中で遊び、動植物とふれあい、様々な体験を得て、心身の調和のとれた発達ができるような園生活を送らせた。</p> <p>今後も、子ども園と小学校間において、接続期のカリキュラムの作成や指導の工夫・改善に努め、幼児児童の発達を長期的な視点で捉えた、円滑な接続に向けての取組に期待している。</p>